

## <発表要旨>第5回国際忍者学会

### 甲賀忍者に関する一考察

「現存する最古の諜報活動に関する記録」は、今から約 3300 年前の BC1274 頃、エジプトのラムセス二世とヒッタイトのムワタリ二世の間で行われたカデッシュの戦いの際のものである。これは孫子の間諜や韓国のスルサや更には日本国内の忍者の起源に引用されがちな聖徳太子・大海人皇子・楠正成などよりもはるかに古く、スパイ活動は人類始まって以来存在したと類推して差し支えないことを示している。とすれば近年各地で報告される“忍者の記録”は実は太古以来の何処にもある単なるスパイの記録であって、決して忍者の記録とは云えないのではないか。

では甲賀の忍びや伊賀の忍びが「甲賀忍者」「伊賀忍者」と呼ばれるのはなぜか。甲賀の地侍である甲賀武士達は甲賀の地元に於いて村の一員として同名中惣や甲賀郡中惣と称する自治組織の運営に携わり、戦国時代のある程度の期間共和的自治を体現すると共に、村の外に対しては武士として戦い、また契約により忍び働きを行う時は自分達で自律的・自主的に戦った。彼等は忍びである前に、何処にも誰にも隷属しておらず、人間として自律しており自主的な決定や行動が出来る存在であったことが重要であり、忍び活動を行う際も大名などの提携者との契約を履行する形で行われたと理解できる。決して大名の命令に服従する形で忍び活動を行ってはいないのである。

そんな彼らの呼称として「リアル甲賀忍者」が用いられようとしている。この語は実在するとか生身のという意味を越えて、「真の甲賀忍者」という意味で用いられている。他方では実は4つのカテゴリーにわたる「リアルでない忍者」が存在することを指摘した。①空想から創造された虚像の忍者達②古来の隷属したスパイ達③”忍術と云う名の武術“を体得したと自称する者達④戦国大名や江戸時代各藩に100%隷属していた諜報従事者達である。これら全ての対極として「リアル甲賀忍者」が存在する。

以上のような概念を明示化する試みとして、人間性軸 (X 軸) とリアリティ軸 (Y 軸) で規定した平面や人間性軸 (X 軸)、リアリティ軸 (Y 軸) と自律性軸 (Z 軸) で規定した三次元空間に各種“忍者”を定性的ながらプロットする試みを行った。甲賀忍者を想定した座標上に配置出来たが、武田の忍びや北条の忍びをどう位置づけるかが今後の課題となる。

以上

## 検証・神君甲賀伊賀越え ～家康一行はどこを通ったのか？

天正10年(1582年)日本の戦国時代最大の軍事クーデターと言われる、本能寺の変が勃発。堺でお茶会をしていた徳川家康と家臣34名にとって時の最高権力者織田信長の死は家康および家臣団にとって、それまで築いてきた戦国大名の地位をどん底に落とすには十分すぎるものであった。この窮地を救ったのが伊賀甲賀の忍びであったことは言うまでもない。この考察は家康一行が宇治田原の遍照院から信楽の朝宮を経て、小川までのルートを進んできたことを前提とし、柘植の徳永寺に到達するまでの約20kmあまりの足取りについて調査した結果を報告するものである。

神君伊賀越えには諸説あり、いまだ決着には至っていないが、本報告も現時点までの情報を精査して、その妥当性から導き出したものであり、

- ① 諸説を提唱する他者を排除するものではないこと
- ② 今後の研究をより一層深めるための考察であること
- ③ 何よりも一歩でも忍者の実像に近づくものであることをあらかじめ定義しておきたい。

### 1. 調査にいたった動機・経緯、時期

2015年5月三重大学伊賀連携フィールドで渡辺俊経が提唱した「神君甲賀伊賀越え」をさらに調査研究し、熟考を重ね、では「どこを通ったのか」を実地検証するにあたり、ルート特定のための証拠文書の解読など情報収集を行い、現場調査や地元住民からの聞き込みを続け、2018年11月から甲賀越えにルートを絞って実地調査に入った。その結果、2019年2月に小川城(小川集落)→神山→榎山→磯尾まで(後述の愛宕権現社縁起の存在による)の最短直線ルート上である古道を信楽神山地区で発見した。同年3月に和田城まで(後述の和田文書の存在による)のルートを推定した。また、2020年2月には和田城から徳永寺に至る最短直線ルート上の国境関門を発見し、今年3月に至るまで、安全で高速移動を可能にする最も妥当性の高い経路である古道を特定した。

### 2. 参考にした証拠となる文書・由緒

一次史料

- ・徳川家康起請文「和田文書」(天正10年6月12日)
- ・徳川家康書状「山中家文書」(天正10年6月4日)

二次史料等

大日本史料十一の一(天正十年六月四日)

- ・林鐘談(りんしょうだん)P190

愛宕山権現社由緒

- ・「江戸名所図会」巻之一(天枢部)

### 3. 政治的要因からの視点

天正9年9月に勃発した第二次天正伊賀の乱で焦土と化した伊賀盆地を通過するより、安全で兵糧の整い易いルートとは？また、

### 4. 科学的根拠

到着時間から逆算した移動時間の算出から見える詳細分析

35人の移動手段は何か、水の確保、服装とは？

(6月4日の早朝に出発して、正午ころに柘植徳永寺に到着する高速なルートとは？)

### 5. このルート特定によって見えてきたものと疑問

望月家、大原家、池田家などは参加していない(文書には出てこない、まだ信長の同盟者には懐疑的であったか？)

ルートをつなぐ真言宗の寺院(遍照院、伊勢廻寺、最明寺)は何を意味するのか？

### 6. 実ルート解説

# 甲賀流武術秘伝にある白文之法 ～秘伝「水出し」を科学する～

○加藤進、紀平征希（三重大学伊賀研究拠点）

**はじめに**：忍者が用いたと思われる長距離の通信手段は大きく2つに分類される。烽火は緊急性が高く、伝達速度は速い手法であるが情報量は少ない。これに対して「炙りだし」は伝達速度が遅いものの確実性が高く、情報量が多い。「甲賀流武術秘伝」には「白文之法」として「水出し」が描かれているが、あまり知られていない。この水出しは極めて科学的に興味深い現象であることを発見したので概要を報告する。

**方法と資材**： 約20gの乾燥大豆を100mlの水に1昼夜浸けて、これをすりつぶしてお茶パックでろ過し、インクとした。あぶり出しの要領で手すき深野和紙に文字や図を描き、30～40分風乾する。

**結果と考察**： 上記の和紙を水に浸すと10秒程度であるが文字が和紙上に出現する（写真1）。この現象はインクに牛乳や豆乳を用いてもやや不十分であるが確認できた。希釈したインクにレーザー光を照射すると明瞭なチンダル現象が観察された。このインクは親水コロイド系を形成していると推定した。しかし、コロイド粒子径は $10^{-5} \sim 10^{-7} \text{cm}$ と小さい。そこで、和紙の表面を走査型電子顕微鏡で観察すると写真1のとおりでvoidと呼ばれる空隙が散在し、手すき和紙の空隙径は $1 \sim 200 \mu\text{m}$ といわれている。分散する大豆粒子径を測定すると $\text{数} \mu\text{m} \sim 50 \mu\text{m}$ が支配的であった（図1）。この和紙の空隙径は大豆粒子径と類似している。コロイド域の粒子とミクロンサイズの粒子が何らかの作用で一時的にこの空隙を塞ぐので毛管現象による水の吸い上げが阻害されて水を吸収せず、文字を描いた部分が残る、このような現象が起こると推定した。

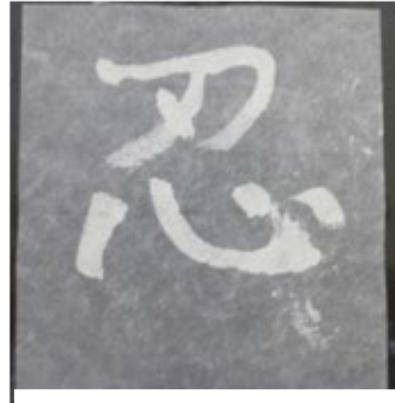


写真1 和紙の上の水出しの文字

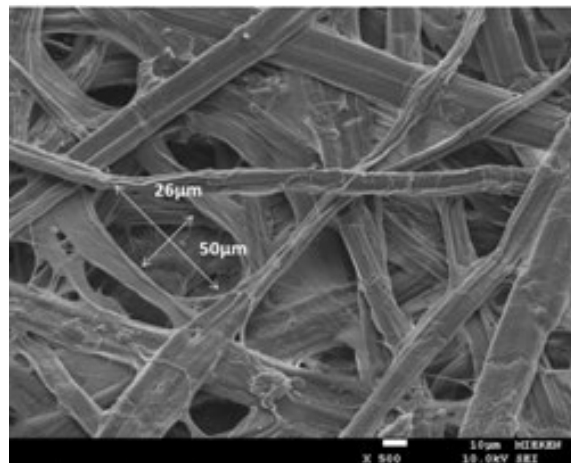


写真1 和紙の表面

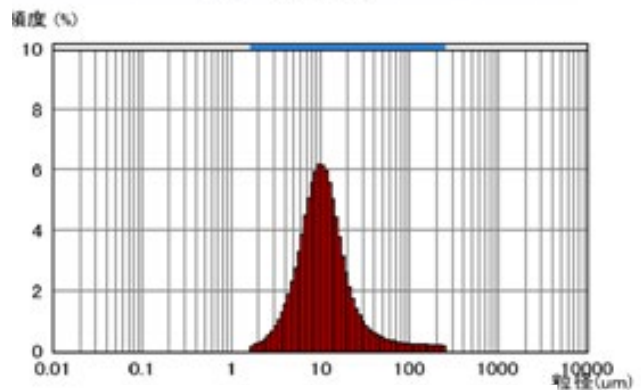


図1 大豆インクの粒径分布

文字を描いた部分が残る、このような現象が起こると推定した。

## 【発表題目】

世間における甲賀忍者のイメージの成立とその変遷  
～なぜ甲賀忍者が悪者になったのか～

## 【発表要旨】

本発表は、「甲賀忍者」と呼ばれる甲賀の地を中心に活躍した忍びの者に対する世間のイメージが、どのように生まれ、どのように変わっていったのかの研究内容の要旨である。

現代において国内10代～60代の男女700名にアンケートを取ったところ、「忍者」と聞いて一番に思い浮かぶ地域（または忍者集団）は伊賀が57%、甲賀は14%であった。現代の人々は、圧倒的に忍者といえば「伊賀」と認識しているようである。また、伊賀忍者と甲賀忍者に対して「正義」と「悪」のどちらのイメージが強いかを集計したところ、甲賀忍者は伊賀忍者に対して2倍ほど「悪」のイメージを持っている人が多いことがわかった。伊賀忍者に対して甲賀忍者は認知度が低く、「悪」のイメージが強いという結果となった要因はどこにあるのだろうか。明治期以降での忍者関連作品において「甲賀忍者」がどのように描かれているかを追っていく。

明治時代に広く庶民に愛された講談本「立川文庫」の代表作となった「猿飛佐助」(1913)は、甲賀流忍術の名人「戸沢白雲斎」に忍術を習い、甲賀流忍者の主人公として描かれた。その他『忍術名人 甲賀流忍術元祖 甲賀雷助』などを中心に、明治では主には正義の忍者として描かれる事が多い。

昭和初期には吉川英治『鳴門秘帖』などに甲賀の隠密などが出てくるが、主人公側の忍者として描かれることが多く、敵役としての登場は多くはない。昭和30年代より白土三平『甲賀武芸帳』(1957)や、山田風太郎『甲賀忍法帖』(1959)が出版され、昭和の忍者ブームが巻き興り始める。忍者ブーム初期の頃は甲賀忍者が正義の場合もあれば悪の場合もあり、必ずしも甲賀が悪という構図が定着しているわけではなかった。しかし司馬遼太郎『風神の門』(1961)や『伊賀の影丸』(1961)辺りから、甲賀が主人公の宿敵となるような作品が増え始めた。

テレビの世帯普及率が90%に達した1964年以降に流行した「忍者ハットリくん」(1966)、「仮面の忍者赤影」(1967)などの子供向けのテレビドラマでも甲賀忍者が悪役として描かれ、千葉真一演じる「影の軍団」シリーズ(1980～)では、甲賀の圧倒的な悪役のイメージが、お茶の間に強烈に植え付けられた。「ハットリくん」や「影の軍団」は昭和の末まで人気を博した。

平成以降、ゲームなどの新しい創作表現が広がるにつれて、甲賀が悪役となる作品は少なからず存在はするものの、伊賀を主役・甲賀を悪役とした構図の作品の例は多くはない。

それよりも、「忍たま乱太郎」や「NARUTO」など、忍者作品であっても伊賀や甲賀が舞台とならない作品が増えてきている。実際に30代以下の世代に関しては、伊賀にも甲賀にも何のイメージすら持っていない人の比率が高い。

アンケートによれば歴史番組や現地の旅などから忍者のイメージを形成した人はほぼおらず、現状はフィクション作品の影響が大きい。甲賀忍者に関わらず、忍者の認知向上には、多様で大量な忍者作品が供給されることが重要であろう。

## 発表題目 福島県の災害公営住宅で展開した忍者運動プログラムの実践報告 藤井かし子

緒言：日々厳しい修行を重ねることで超人的な動きをすることを可能とした忍者は不動心を持ちながら、導引法を使って健康維持をしてきたと伝えられている。本研究の目的は、福島第一原発事故で被災した高齢者を対象に展開した忍者のエッセンスが含まれている運動プログラムの効果の検証をすることである。特に忍者運動と名付け、プログラムを展開したフィールドに焦点を当てる。

研究方法：

プログラムの作成：

運動機能と精神健康の維持・向上を目指すためのプログラムに、忍者のエッセンスを入れることが重要であると考えた。福島第一原発事故により、多くの高齢者が住み慣れた地域や家を奪われ、何回も引っ越しをするなど、厳しい状況を経験している。事故から11年たった現在においても、4割～5割近くの被災者に心的外傷性ストレス(PTSD)があるという調査結果がある。社会資源の不足、コミュニティの分断、孤独、将来の介護への不安、家族との離縁、喪失感などが、PTSDの高い数値と関連していると考えられる。忍者の3病は「一に恐怖、二に敵を軽んず、三に思案過ごす」である。忍者の3病を克服することは、原発事故で恐怖と不安を抱きながら生きてきた被災者の方々に通じると考えた。また、山でキノコなどの山菜とりを楽しみにしていた高齢者の喜びが失われてしまったことを考慮し、山に入る忍者のイメージと福島県の山に入る高齢者の姿が二重写しとなった。

フィールドと対象者：福島県二本松市の災害復興住宅の高齢者

プログラムツール：音付き絵本：口腔、のど、顔の体操、手の体操、上半身の体操、足部・足趾・下肢の体操、呼吸法の5種類の運動のページと2種類の歌のページから構成される。。忍者の養生法である、末端の耳や手、足の先のツボを按摩で刺激し体をタッピングして軽く刺激する方法や忍者の呪文なども含まれていた。忍者文字練習帳は、忍者が使用した暗号文字をなぞる練習帳  
介入方法とプロセス

災害公営住宅の集会所で、自治会長を中心に忍者運動プログラムが展開された。自治会長が音付き絵本をもとに自らが出演した動画を作成した。災害公営住宅集会所では、参加者は、自治会長の主導で動画を見ながら約50分の運動を行った後に、忍者文字練習帳に取り組んだ。

結果と考察

プログラムの中に忍者のエッセンスを入れたことにより、普段やっていた体への刺激や手指、手足の運動をすることが可能となった。介入前後に調査した最長発声持続時間、足趾把握力測定、握力測定の測定等を行った。握力は介入前後に有意に上昇した。嚥下機能の向上が見られた。半数が忍者文字練習帳は難しいと答えていた。高齢者。今後は、さらに参加人数を増やし検証する必要がある。また、忍者文字が難しいと回答した高齢者が多かったが、忍者文字練習帳による脳波の変化を検証する必要がある。